

(3) 算 数

領域・小問ごとの分析	対 策 の 視 点
<p>① 数と計算</p> <p>1. 分数や小数の計算</p> <p>(1) 異分母分数の加法 正答率は75%で、よく理解されている。誤答では帯分数の処理による誤りが見られる。</p> <p>(2) 異分母分数の減法 正答率は68%で、加法の正答率より低い。帯分数の整数部分の処理がよく理解されていない。</p> <p>(3) 分数の乗法 正答率は63%である。整数をかける場合、その数は分母にかけるか分子にかけるか迷いが見られる。</p> <p>(4) 分数の除法 正答率は60%である。帯分数の処理に誤りが見られる。</p> <p>(5) 小数の乗法 正答率は70%であるが、誤答から小数点の位置の移動の理解や乗法九九が完全でない児童が見られる。</p> <p>(6) 小数の除法 正答率は65%である。除数が小数である場合の小数点の処理につまずきが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ (1)、(2)ともに、通分の指導と帯分数の整数部分の処理の指導を計算を通して十分に体得させたい。 ◦ (3)、(4)ともに帯分数の整数部分の処理については、帯分数の成り立ちをよく理解させ単なる機械的な操作に終わらないようにする。加減法との違いなどについても理解させる。 ◦ (5)、(6)ともに小数点の移動の指導は形式的にならないよう、十進位取り記数法の原理により指導することが大切である。
<p>2. 奇数・偶数の類別</p> <p>正答率は65%である。誤答を調べると0を偶数としない誤りが殆んどである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 0は整数であり、偶数の仲間に入れる約束になっていることを印象づけたい。
<p>3. 公約数</p> <p>正答率は46%で、よく理解されていない。誤りの大部分は約数の1の見落としによるもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 約数と倍数の関係から約数の1の存在に気付かせるようにする。